

### 吉浜幼稚園

クラス数が市内でも多く、町内広範囲の地区から通園してきている。小学校と隣接し、音楽会やフェスティバル等の学校行事への参加や避難訓練等、職員・児童・園児の交流を背景に、互いに協力・連携した活動を多く取り入れている。保育室の前に、今年新たに地域の方の協力により畑が作られ、ブロッコリーや人参等が育てられた。身近な場所での水やりや草取り等の収穫体験は、子ども達の栽培意欲を高め、興味を持つ子が多いことから、自然とのかかわりもより深まった。また、採れた野菜を使って園内でのクッキングや収穫した野菜を持ち帰ることによる家庭での話題作り等、食育の充実につなげられている。地域交流では、まちづくり協議会やいきいきクラブとの連携を通して、七夕、盆踊り、菊人形づくり等数々の伝統文化の活動が継続的に行われ、吉浜地区ならではの地域のつながりの深さと、信頼関係で結ばれた暖かな見守り感がある。保護者との日常的な情報交換、個別懇談会と共に、学年別で懇談会を実施し、同学年の保護者の悩みや幅広い意見交換等横のつながりを大事にしている。特別支援の必要な子が年々増える中、積極的に個別の話し合いの場を持つ等、園と家庭とがしっかり連携する中で、子ども達の成長発達を捉え、必要に応じて専門機関との連携も視野に保護者が安心して預けられる園体制を整えている。PTA 役員を中心に卒園児を送る為の様々な準備等が自主的に行われ、保護者が園行事に積極的に関わる様子が見られ、子どもを通して園と保護者との良好な関係性が伺える。今年度新たに園内に1, 2歳児クラス小規模保育所「ぼんぼんママ」も開設され、今後園児との交流等メリットも期待できる。

### 高浜南部幼稚園

地域資源はもとより、あらゆる社会資源を柔軟に活用し、良質な幼稚園教育の実践が展開されている。南部ふれあいプラザ、かわら美術館という地域資源のみならず、津波に備えた防災では、つながりのある団体からライフジャケットの提供も受けた。地元団体等の協力も得ながら園庭の整備がすすみ、子どもたちが築山や芝生であそび、自分たちのつくった場（基地やお店）を気に入って、我がものとして過ごしている様子がみられる。外国籍や発達支援の必要な子どもへの配慮についても、手厚くなされていた。保護者への情報提供として、おたよりをドキュメンテーションとして写真を中心にまとめ、子どもたちの育つ姿がよくわかるように工夫されていた。ポートフォリオのように編まれたクラスごとのファイルは、子どもがどのように仲間と過ごしているのか、何に興味をもっているのか、そこでどんなことが大切にされているのか、子どもの発想の豊かさや、保育の中で大切にしたいことがわかりやすくまとめられている。限られた時間のなかで、子どもの学びを振り返るための形として、今後も活用されていくことが期待される。ボランティアの大学生による舞台などを受け入れ、子どもたちに日頃の生活ではできないような経験も保障している。他機関とつながる実践には、子どもにとって保育者からだけではなく刺激を受ける機会となり、より充実した園生活につながっている

### 吉浜北部保育園

八幡社の隣に位置し、神社周辺の古くからある地域とともに「吉浜北部保育園」の保育は構想されている。まち協、JA等を通じて伝統的な地域の行事への参加や、野菜づくりによる食や自然とのかかわりが特色である。子どもたちが朝の集まりや造形活動などを通して、自分たちで自分たちの生活をつくりだす工夫をしている姿が随所にみられ、受け身ではない毎日の活動が子どもを育てている。特に乳児クラスの職員間の連携には意欲的に取り組んでおり、ウェブ式の月案や、子ども別のケース検討などを行っている。こうした日々の保育実践の見直しをふまえ、乳児クラスの環境構成を変化させ、子ども一人ひとりにとって過ごしやすい空間を整える努力をしている。定期的なエピソード記録の作成、それに基づく話し合い、ビデオカンファレンスなど、子ども理解を丁寧に行っており、今の時代に即した保育を、高浜市の公立園として行っていくという前向きな姿勢を感じる。これまでの0歳から5歳までを見通した保育園保育の蓄積が、園のうさぎの世話などを通して、年齢を越えて展開されている。特に本園は外国籍の児の在籍が多く、保護者への対応を含め多様な家庭環境に育つ子どもへの配慮がかかせない状況にある。発達に支援が必要な状況なのか、それとも家庭における文化の特徴なのか、判断が難しい場合も少なくない。守秘義務にかかわる案件への対応に備え、市による公的な通訳システムを含め、多文化である保護者への支援を充実させていくことは喫緊の課題だろう。

## 高浜南部保育園

閑静な住宅街の中にあり、高浜市社会福祉協議会の運営により園の敷地内の中には高齢者デイサービスが併設、地域共生型福祉施設「あっぼ」子育て支援センターも隣接されている。誕生会、お茶会等、日常的に高齢者と触れ合うことができ、子育て支援事業では一時保育も行う等、幅広く多機能にわたった運営がなされている。姉妹園の職員との学年会議、定期的に外部講師を招き年齢に応じた発達援助について勉強会を開催、障害児保育では年5回程度言語聴覚士を招き、相談や助言を受ける等している。職員自ら外部の研修会にも積極的に参加し、学んだ内容を園に持ち帰り職員間で共有する等、園全体で保育の充実に向け意欲的に努力する様子が伺える。未満児保育は育児担当制を取り入れ、個々の生活リズムや人格を尊重した「流れる日課」を実施、指導計画・記録もウェブ式を導入することで、個々の発達の状況が明確になり、ねらいも定めやすく、きめ細やかで丁寧な援助につながっている。年齢に応じた遊びのコーナー作りや手作り感あふれる暖かみのある玩具等が至る所に散在し、魅力的な環境設定の中で生き生きと遊ぶ子どもの姿が見られる。まちづくり協議会をはじめ地域自治会との連携も盛んで、野菜作りや餅つき、夕涼み会等多くの行事が企画され、子ども達に様々な感動体験が味わえるように工夫されている。また、町内会・デイサービス・「あっぼ」とも協力し、地震・津波から子どもを守るための合同避難訓練を実施、災害に対する危機管理意識も高く、定期的な訓練により万全の対策を講じるようにしている。施設内の衛生管理、整理・整頓や清掃等も行き届き、のびのびとした子ども達に加え職員の明るい笑顔や挨拶から園全体の活気と心構えが伝わってくる。

## ひかり こども園

園舎の周りには田園が広がり、園庭には広くのびのびと遊べる空間と子どもたちが興味を引くカラフルな固定遊具が多く配置されている。園舎が幼稚園舎とつながり、建物が一体化されたことで、早朝・延長保育を合同で行う等、幼保の交流が深まっている。保育室は光を十分取り込める造りで、明るく暖かみのある空間となっている。0, 1, 2歳児の保育の場には、子どもの興味をひく保育者による手づくりのおもちゃがたくさん置かれていた。子どもの発達段階に即したおもちゃや遊具を少しずつ増やし、好きな遊びができるコーナーなども用意するなど取り組み方を変化させることで、子どもが積極的に遊びに取り組みめるようになった。3, 4, 5歳児の保育メニューが多岐にわたっており、名古屋、豊田の姉妹園との様々な行事に加え、外部講師による英語教育や体育教室、スイミングやリトミック等多様な親子のニーズにも応えられるものが整えられている。周辺の田んぼ道を利用しマラソンで体力強化を図る一方、四季折々の自然体験では、竹の子堀りをはじめ、遊歩道での蛍の放流・鑑賞会、サツマイモ掘り、みかん狩り、餅つき、そり遊び等、自然と触れ合う機会が多くあり、町内会を通じて地域の交流も増えている。設立から保育の経験年数を重ね、他地域からの移植というだけではない、高浜市清水町の特色を備えた保育実践を模索している。つまりそれは、子どもにとってなにが大切なのかを考える保育に向かう新しい理念の萌芽がみられた、ということでもある。

## あおぞら保育園

設園6年目、0, 1, 2歳児のみの小規模園で住宅街の一角にかまぼこ形の園舎が設立されている。建物はバリアフリーで、内装は木のぬくもりを感じる優しい作りでコンセントカバーや空気清浄機の設置、ドアの工夫等未満児園ならではの健康と安全を重視した設計になっている。一年中緑が感じられるように園庭には芝が植えられ、夏には水遊びや裸足で走り回れるよう外遊びの場として工夫されている。室内は二つの保育室を活動・睡眠の場として区切ったり、オープンにしたりして、生活に応じて変化できる空間づくりがなされている。調理室は通路から見える身近な位置にあり、調理員や栄養士が日々園児と触れ合う中で、個々の体調や喫食状況を把握し、担任と連携し献立を考えたり配膳の工夫をしたりと、きめ細やかな対応ができていて、子どもの成長に欠かせない「食と生活」のつながりに重きが置かれている。食用手ふきタオルは持参すると園で一端消毒し清潔な状態で使用され、使用済み紙パンツ等も園で処理し、衛生面での気遣い・配慮がなされている。保護者の多様なニーズに応えるため、保護者と職員全員が常に密な関係を維持し、家庭的で暖かい受け入れを目指して育児相談にも力を入れている。年齢が低いため地域団体との直接的な交流は積極的には行っていないが、設立前から開園への十分な理解を得ることで、近隣の住民の方達とは継続的に良好な関係が築かれている。2歳児が卒園し、新しい園で環境が変わってもスムーズに受け入れがなされるよう、事前に入園先と綿密に情報交換することで、移行へのつながりが円滑に出来る配慮があり、安心して転園・進級できるようにしている。

## たかとりこども園

高浜市の公立幼稚園および公立保育園におけるこれまでの実践を踏まえ、幼保連携型認定こども園として「たかとりこども園」による保育が今年度から実施され始めた。職員同士が名前や顔を覚えることから始まった年度当初から、200人以上の園児を受け入れてきた。以来、とくに大きな事故等なく、幼稚園と保育園のそれぞれにある良さを活かした保育が積み重ねられてきたことは、社会福祉法人 清心会による丁寧な準備と運営の成果であり、園長を中心とした職員同士のつながりが良好であることの証左だろう。新たな取り組みに向かう保育者たちが、それぞれの子どもの姿の理解に努め、職員同士で学びあう風土がつけられつつある。新しい園舎全体に活気があり、一人ひとりの保育者が、子どもの声を聴き、保護者の要望に応える保育を実践しようとしている。園庭開発はまだ途上だが、子どもの探究心や好奇心を大人による安易な注意でつぶさないよう、子どもが自ら自分のすることを選べる環境を用意し、大型の室内遊具、多目的ホール、遊戯室、屋上テラスなどを工夫して利用していた。今後、学校とも連携し、より多くの戸外あそびの実施が期待される。稗田川沿いの散歩が寒い中でも、乳児を含め実施されており、ますます、子どもたちのあそびが発展しやすい環境になっていくことが予想される。絵本の部屋では、子どもが自ら絵本を選び、そこからそれぞれの学びが深まっていくよう、本の置き方、分類、読書スペースのつくりかたを工夫している。地域の民生委員や自治会等と連携した取り組みが、多様な保護者への対応を含め、これからの実践に期待される部分である。なお、年長児には英語教室、体育教室、スイミング教室などにも参加する機会があり保護者の要望に応える保育内容の充実にも努めている。